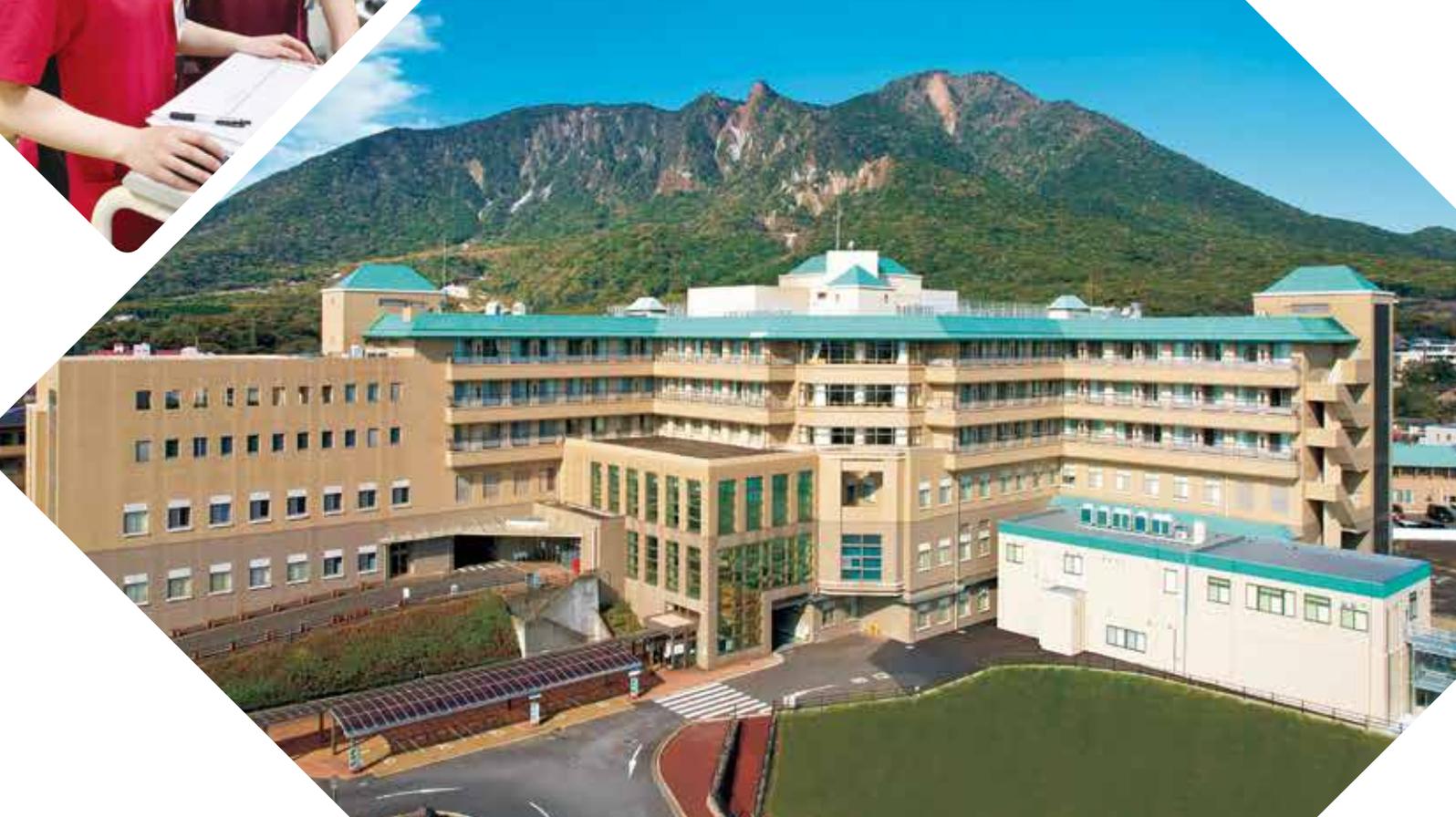




長崎県島原病院

NAGASAKI PREFECTURE SHIMABARA HOSPITAL

病 院 案 内



院長挨拶

長崎県島原病院の病院案内をご覧いただきありがとうございます。

当院は島原半島の基幹・拠点病院としてがん、救急、災害医療に加え地域医療支援を担っています。

広大な半島を背景に可能な限り地域内完結できる医療を目指し、また、医療設備に依存する疾患や希少な疾患には中央の施設と連携し、最新の医療を患者さんに提供できるように日夜取り組んでいます。診療の中心はがん、脳卒中、心不全・肺炎、消化器疾患、小児診療など多岐にわたっています。

がん診療にはがん診療センターを附設し、手術療法、放射線療法および化学療法を専門的に実施しています。また、脳卒中センターとして半島内の脳出血・梗塞に24時間対応しています。救急診療は輪番病院として二次医療を担っています。

近年、遭遇することも多い災害に関しては拠点病院としてDMATを有し、災害対策樹立・支援に積極的に参加しています。

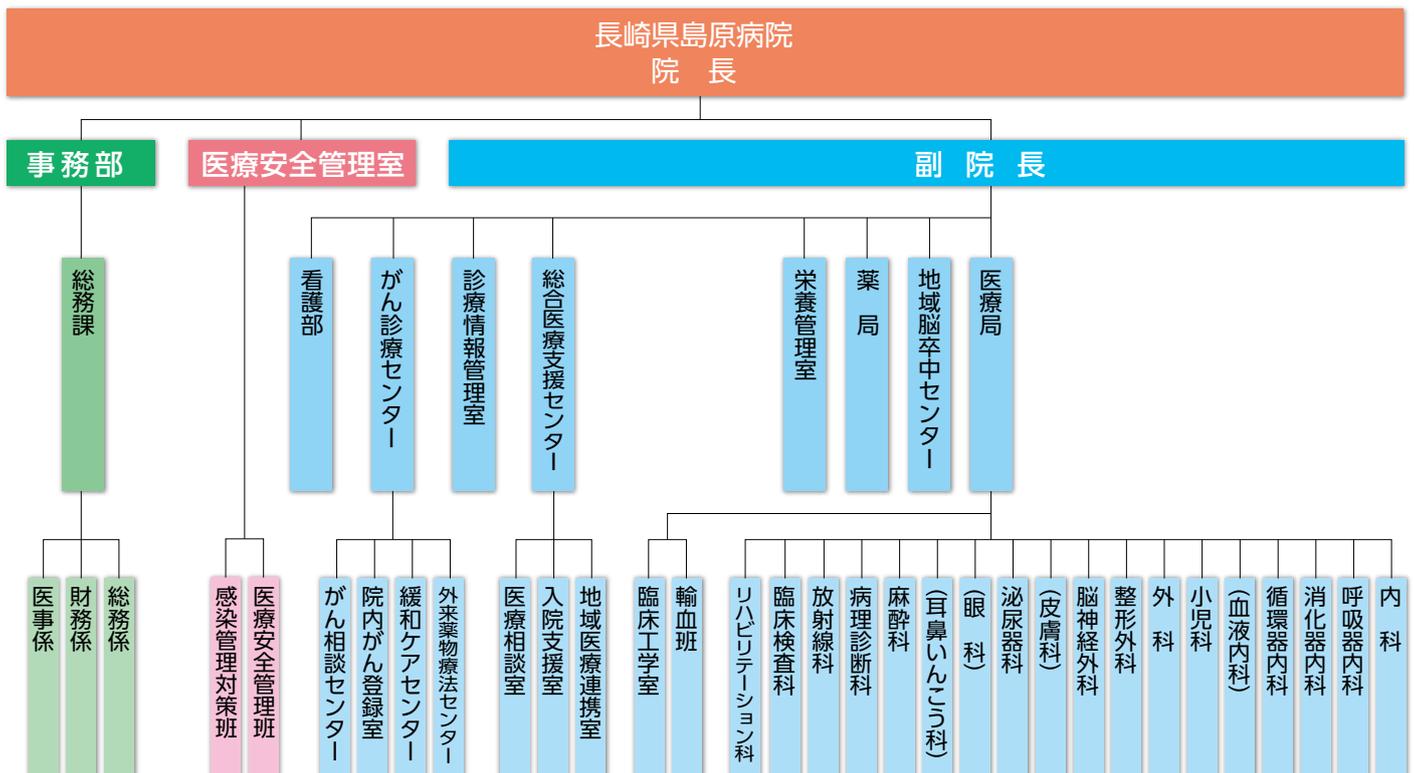
急性期診療→ 地域施設と連携した回復期訓練→ 施設/在宅というシームレスな地域ケアのために総合医療支援センターを設置しています。入院に関することのみならず、医療費、福祉手続きなどご不明な点があれば、ご相談ください。

皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

長崎県島原病院長
蒲原 行雄



組織体制



病院理念

〈Mission〉

地域の健康な未来を創造する

〈Vision〉

良質な医療の提供に努め、地域から信頼され、地域の健康を支え続ける

病院方針

- 1.安全・安心で質の高い医療を提供する
- 2.患者への思いやりのある温かなチーム医療を行う
- 3.職員が自ら学ぶ前向きな姿勢をもち、誇りを持って業務を遂行する
- 4.医療を取り巻く社会環境の様々な変化に柔軟に対応できる経営の効率化と経営基盤の構築を図る
- 5.患者、医療・介護施設から行政まで幅広く対話を図り、地域と連携し、選ばれる病院となる

建物概要

別館		本館		 <p>【建築面積】 5250.03 m² 【延べ面積】 21212.76 m² 【構造】 鉄骨鉄筋コンクリート造 【階数】 地下1階、地上5階 【病床数】 一般153床(内 HCU8床) 地域包括ケア50床、感染症4床 【駐車場】 約390台</p>
医局・看護部 総務課・医療安全管理室	5F	東病棟 501～523 (脳神経外科・整形外科) 南病棟 551～573 地域包括ケア病棟		
管理部	4F	東病棟 401～423 (外科・泌尿器科 消化器内科・内科) 南病棟 451～476 (呼吸器内科・循環器内科 小児科・放射線科・内科)		
	3F	ラウンジ・売店・理容室 総合医療支援センター・がん相談センター		
研修ホール 島原地域小児医療研究室	2F	手術部・HCU・リハビリテーション科 臨床工学室・臨床検査科・病理診断科・輸血班	がん診療センター 外来薬物療法センター 緩和ケアセンター	
	1F	総合受付・会計・外来・救急処置室 放射線科・内視鏡室 栄養指導室・診療情報管理室・院内がん登録室		
島原市通園施設「あい♥あい」	BF	核医学診断部 (RI) リネン室・栄養管理室・薬局	放射線治療室	

病院沿革

1966年(昭和41年)	温泉を利用したリハビリテーション専門病院として、「長崎県立島原温泉病院」開設 内科、外科、整形外科、理学診療科（一般病床200床）
1971年(昭和46年)	「原子爆弾被爆者指定医療機関」指定
1973年(昭和48年)	脳神経外科 常設
1983年(昭和58年)	救急告示病院に指定 長崎県病院群輪番制病院(第2次救急輪番病院)
1996年(平成8年)	災害拠点病院(地域災害医療センター)に指定
1997年(平成9年)	放射線科 常設
1999年(平成11年)	麻酔科 常設 新病院起工
2001年(平成13年)	小児科 常設
2002年(平成14年)	新病院開院 名称を、「長崎県立島原温泉病院」から「長崎県立島原病院」に改称 一般病床250床(うちHCU4床)、感染症4床、MRI(磁気共鳴断層撮影装置)、CT(断層撮影装置)、 DSA(全身用血管造影撮影装置)、RI(ガンマカメラ)、リニアク(放射線治療装置)の整備 泌尿器科、眼科 常設
2003年(平成15年)	「臨床研修病院(管理型)」に指定
2004年(平成16年)	「地域医療支援病院」の承認
2005年(平成17年)	(公財)日本医療機能評価機構による「病院機能評価」(Ver4.0)の認定
2006年(平成18年)	強度変調放射線治療(IMRT)実施機関の承認
2007年(平成19年)	「地域がん診療連携拠点病院」に指定
2009年(平成21年)	「脳卒中センター」に指定 運営主体が「長崎県」から「長崎県病院企業団」に移行し、名称を「長崎県立島原病院」から「長崎県 島原病院」に改称 敷地内ドクターヘリポート運用開始
2010年(平成22年)	電子カルテ 導入 (公財)日本医療機能評価機構による「病院機能評価」(Ver6.0)の認定
2011年(平成23年)	全身用CTスキャナー(64列)へ更新、MRI2基目導入(MRI棟増築)
2013年(平成25年)	HCU増床(4→8床)
2014年(平成26年)	DSA更新 病理診断科 常設 地域包括ケア病棟 開設
2015年(平成27年)	(公財)日本医療機能評価機構による「病院機能評価」(3rdG:Ver.1.1)の認定
2016年(平成28年)	「院内保育所」開設
2017年(平成29年)	MRIを3テスラへ更新、365日リハビリテーションの実施
2018年(平成30年)	電子カルテ 更新
2021年(令和3年)	(公財)日本医療機能評価機構による「病院機能評価」(3rdG:Ver2.0)の認定
2022年(令和4年)	がん診療センター 開設
2024年(令和6年)	一般病床47床削減



エントランスホール



外来待合室

診療科・ 医療技術部門 紹介

呼吸器内科

診療部長
菅崎 七枝

高齢化の進む島原地域で急増する呼吸器疾患

地域がん診療連携拠点病院の呼吸器内科として、我が国の死因第1位であるがんの中で、最も死亡者数の多い「肺がん」に対して内科的診断治療の充実・向上に努めています。免疫療法、分子標的治療を含めた最新のがん薬物療法を行なっています。他院で手術をした場合の術後治療、他院で導入した薬物療法の継続を行なっています。

COVID-19、肺炎は、高齢者の多い島原半島で重症者も多く、地域の医療機関で治療困難な患者も受け入れています。

慢性閉塞性肺疾患（COPD）、在宅酸素療法が必要な慢性呼吸不全など呼吸器リハビリをおこなっています。

気管支喘息など一般的な呼吸器疾患に加え、間質性肺炎など専門性の高い検査や治療が必要な疾患も診療しています。

内科、呼吸器、臨床腫瘍、感染症、など様々な学会の認定・指導施設であり、専門医を目指す医師にも、十分な研修ができるようになっています。

循環器内科

医長
黒部 昌也

早期自宅（社会）復帰へ向けて

循環器内科では心筋梗塞、狭心症といった虚血性心疾患や、心臓弁膜症、心筋症による心不全、及び不整脈、大動脈疾患、閉塞性動脈硬化症などの末梢血管疾患に至るまで各種検査を用いて診療にあたっています。また高血圧、脂質異常症、糖尿病などいわゆる生活習慣病対しても教育、指導、治療を行っています。入院症例に対しては早期に心臓リハビリテーションを開始する事で、活動性の低下を予防し、早期の自宅（社会）復帰を促します。

冠動脈疾患:冠動脈CT・心臓カテーテル検査・PCI

閉塞性硬化症:ABI・下肢エコー・SRPP・EVT

不整脈:24時間心電図・長時間イベントレコーダー

除脈性不整脈:ペースメーカー植え込み術

頻脈性不整脈:内服治療・電気除細動など行っております。

一般内科

医師
古賀 潤紀

地域医療へ貢献

当院の一般内科では、高齢者に多く見られる肺炎、尿路感染症、電解質の乱れなど、日常生活に影響を及ぼす病気の診療を行っています。さらに、原因が明確でない体調不良や、どの診療科にも分類しにくい複雑な症例についても、各専門科の医師と連携し、丁寧に検査と治療を進めていきます。外来では、高血圧、脂質異常症、糖尿病、慢性腎不全など、生活習慣に起因する病気について、診察や治療、そして健康管理のアドバイスをしています。患者様の声に耳を傾け、些細な疑問にも真摯に対応することを心がけ、一人ひとりに合った最適な治療方針を提供できるよう尽力します。

消化器内科

副院長
山西 幹夫

内視鏡とともに...

消化器内科は食道・胃・小腸・大腸の消化管領域と、肝胆膵領域の診療に当たりますが、当科では特に消化器疾患と胆道系疾患を中心とした診療を行っております。

その中で欠かせないのが内視鏡です。内視鏡の開発とともに消化管診療は飛躍的に進歩し、今なお画像技術などの向上とともに内視鏡機器は進化しています。検診や診療の場において、消化器内科にとっては必須のアイテムです。

また、内視鏡処置具の進化は内視鏡的な処置・治療に大きく貢献しており、早期癌や消化管出血の内視鏡治療、胆道系結石・腫瘍による閉塞性黄疸や胆管炎に対する内視鏡的ドレナージなどの処置を可能としており、他にも様々な処置に活用されています。

今後まだまだ進歩する可能性を秘めており、内視鏡の進化と共に我々スタッフ一同も日々研鑽して診療に臨みたいと思っています。

血液内科

(非常勤医師)

島原地域の診療に貢献できれば

血液内科は、急性白血病や悪性リンパ腫などの悪性疾患の診断・治療のほか、貧血や多血症などの診療を行う科です。これまでは悪性疾患に対する抗がん剤投与も当科で行ってききましたが、2025年6月以降、入院診療を中止することになりました。現在は長崎大学病院血液内科の医師が月曜日・水曜日に外来診療のみを行っております。そのため抗がん剤の治療を外来で行うことは難しいですが、多血症の診断・治療や貧血・血小板減少に対する輸血、これまでに抗がん剤治療が完了した方の経過観察は行います。入院して治療が必要な場合は、他の病院とも連携し、島原地域の診療に貢献できればと思います。

診療科・ 医療技術部門 紹介

外科

院長
蒲原 行雄

患者さんの状況に応じた個別化治療を目指しています。

当院外科では消化器(消化管、肝胆膵)、内分泌、乳腺、鼠径ヘルニア、一部の胸部疾患などを中心とし、内容も悪性疾患、良性疾患、腹膜炎・外傷などの救急疾患と多岐にわたっています。

当院は県南地区唯一の地域がん診療連携拠点病院に指定されており、がん診療に際しては外科的な手術療法のみならず、薬物療法、放射線治療、緩和ケアも完備し、部門毎に連携し取り組んでいます。

私たちの治療方針は患者さんの状況に応じた個別化治療です。重症度の高くない疾患では、創が小さく、侵襲の少ない腹腔鏡手術による負担の軽減、局所進行悪性疾患では、合併症の少ない手術の導入、さらには高度進行悪性症例には薬物療法を先行し、病変を縮小させ根治手術につなぐConversion(転換)治療を実施しています。その根底には“がん”であってもあきらめることはない!というポリシーがあるからです。

患者さんを中心とした看護師、医師、薬剤師、栄養士、リハビリテーション、社会福祉士など様々な職種のスタッフによる医療チームで早期回復と退院、安定した社会(家庭)復帰をサポートしています。

外科診療を志す方へは、臨床研修病院として長崎県外科専門医プログラムに加わっており、年間約500例前後の手術を実施しています。一般および乳腺外科、消化器外科、肝胆膵外科などの領域を学会認定医の指導のもと十分な研修ができます(通年ではなくても一定期間の修練も相談に乗っております)。



脳神経外科

診療部長
林 之茂

信頼される脳神経外科治療を行います

島原半島の脳疾患急患に対して、救急隊、かかりつけ医とのホットラインを用い24時間受け入れしています。地域脳卒中センターの認定を受けており、脳梗塞の保存的治療として血栓溶解治療・脳血管内治療による血栓回収術を行なっています。また、脳出血に対する血腫除去術、脳動脈瘤に対するクリッピング術、血管内コイル塞栓術、脳腫瘍に対する手術や化学放射線治療も行なっています。その他、早期より集中治療室でのモニター下での離床、廃用症候群予防リハビリテーションを行なっています。安心して治療継続ができるよう、回復期リハビリを担う近隣病院・施設との連携を深め、脳卒中地域連携パスを活用しております。

整形外科

診療部長
岩永 斉

QOL(quality of life: 人生の質・生活の質)の向上を目標として、運動器疾患の治療を行います。

四肢外傷、膝痛、股関節痛を中心に診療を行っております。思いやりのある効率的で質の高い医療を理念とし、安全、確実な治療を目指して治療を行っております。患者さんにとって最適で負担の少ない手術を導入するよう努力しております。

●四肢外傷

高齢者に対する手術が多くなっております。大腿骨近位部骨折は年間約200例手術をさせて頂いております。高齢者はさまざまな病気を抱えておられることが多いです。他科、あるいは近隣の医療機関と協力して、合併症の発生を防ぎ、手術後は早期離床、積極的なリハビリテーションを行っています。

●股関節・膝関節の人工関節手術を中心とした関節外科

人工股・膝関節置換術は、成績の安定した手術です。ほとんどの場合、長期間にわたって、痛みが軽くなり、歩行が楽になります。

人の生活動作の基本は、立つ、歩く、物を持つなど自分の体を動かすことです。この体を動かす部分を運動器といい、骨、関節、靭帯、腱、神経、筋肉などが含まれます。整形外科は、これらの運動器の病気(疾患)や怪我(外傷)を診療します。われわれ整形外科医を含むスタッフは、患者さんの疾患、悩みを親身になってうかがい、生き生きとした生活を取り戻すお手伝いをします。

小児科

医長
明石 周爾

連携によってささえられる小児地域医療

小児科は常勤医2名で診療にあたっており、午前中は一般小児科外来、午後は主に急患対応を行っています。

小児科を受診する場合は多くは感冒をはじめとした感染症ですが、同じ感染症でも新生児や重症心身障害児、免疫不全のある児などでは対応が変わっていきます。感冒を契機とした喘息発作でも、周囲の喫煙者の有無や普段の管理の状態などによって、症状の強さ、経過には差があります。

そのような中で、リスクが高いと判断された症例が、かかりつけ医の先生方から当院へ紹介となり、入院や綿密な外来でのフォローアップを行っていくこととなります。

その他専門性の高い領域に関しては長崎大学病院などの高次医療機関や他科の先生方、成長発達に関しては療育や学校、行政などと連携をはかりつつ、島原の地に生活している子供たちが心身とも健康に育っていく手助けができるよう、今後も尽力してまいります。

泌尿器科

副院長
平島 定

地域に根差した泌尿器科領域の幅広い診療

排尿に関する問題は、生活の質に大きな影響を与えることがあります。島原地域は高齢者も多く、より良い生活を維持するために問題を解決すべく取り組んでおります。

泌尿器科の担当する悪性腫瘍は尿路系(おしっこに関連した臓器;腎臓・尿管・膀胱・尿道など)と男性の生殖器系(精巣・精巣上体・精索・陰茎など)、その両方に関わる前立腺を取り扱います。

島原に多いとされる尿路結石への体外衝撃波での治療や、開腹手術や泌尿器腹腔鏡技術認定も取得しており腹腔鏡手術も行っております。

地域の開業医や他院の泌尿器科の先生との連携をとりながら、地域医療に貢献したいと思っております。

麻酔科

診療部長
柴田 茂樹

安全な手術と痛みのない術後を目指して

麻酔科は、患者さんが安全に手術を受けていただけるように、手術中の痛みを取り去り、血圧、心拍数、呼吸などが安定するように全身管理を行い、手術が終わった後も苦痛なく安楽に過ごしていただくための術後疼痛管理も行っています。

また、痛みの外来(ペインクリニック外来)では、帯状疱疹や手術やけがのあとに長く続く痛みや、片頭痛、脳卒中後の痛み、五十肩やむち打ち症などなかなか治らない痛み(慢性痛)の治療を行っています。

さらに救急救命士さんが点滴の針を血管に入れたり、人工呼吸のためのチューブをのどに入れる実習(静脈路確保、気管挿管実習)の指導を行い、地域救急医療の質の向上、発展に協力しています。

病理診断科

診療部長
林 徳真吉

信頼される業務の継続

病理診断科では、病理診断と細胞診を主に実施しています。

常勤の病理医が居て、病理診断の依頼を受けてから2日程度で返事をしています。術中迅速診断や免疫染色も行い、診療を支えています。

二人のベテラン病理医にお願いして、全ての病理診断をダブルチェックして貰い、診断の質を高く維持しています。医師・技師両方のスタッフが共に研鑽し、診療に役立つ病理診断・細胞診の提供を目指しています。



耳鼻咽喉科

(非常勤医師)

島原地域の診療に貢献できれば

長崎大学病院の医師が月曜日・木曜日に診療を行っております。

耳鼻咽喉科では耳、鼻、のどの診察・治療を行います。具体的には難聴や中耳炎、めまいなどの耳疾患。鼻出血や副鼻腔炎(蓄膿症)、アレルギー性鼻炎などの鼻・副鼻腔疾患。扁桃炎や声帯ポリープなどの咽喉頭疾患。その他に頭頸部良・悪性腫瘍や顔面神経麻痺、嚥下機能障害など幅広く診療しています。また、補聴器について専門の医師がアドバイスし、相談ができる補聴器外来も行っております。

他の病院とも連携し島原地域の診療に貢献できればと思います。

放射線科

診療部長
小幡 史郎

ていねいな画像診断と、高精度でやさしい治療技術を駆使し、さらにいっそう地域の人々に貢献して参ります

チーム医療を構成する中で、画像診断の充実、非侵襲的なインターベンショナル治療の実践および放射線治療分野の拡大を図り、安全性の高い医療と悪性腫瘍患者のQOL向上を追求しています。また、放射線治療装置(リニアック)、3T/1.5TのMRI、Dual Energy CT、DSA、RI、超音波装置、及び骨塩定量装置など最新の高度医療機器を刷新整備し、共同利用や画像診断の情報提供など病診及び病々連携事業の一端を担っています。とくに放射線治療分野において、高精度な定位放射線治療(STI/SRS、SRT;全身に対応、ガンマーナイフにも匹敵)や強度変調放射線治療(IMRT;VMAT対応)は、これまで多くの症例において安全に施行され、また治療効果も良好です。さらに、臨床的に治療困難とされていたがんの元凶である治療抵抗因子(抗酸化酵素過剰産生や低酸素分圧がん細胞)を排する放射線増感剤を併用し、これまでの治療の限界を超えていく『酵素標的・増感放射線療法(KORTUC:コータック)*』を世界に先駆けていち早く適用し、すでにこの13年間で300例を超える難渋症例を経験し、安全に期待以上の目覚ましい効果を発揮しています。現代の医療に不安を感じている方は、どうぞ遠慮なく当院への受診をお待ちしております。

*参考文献:

<https://www.spandidos-publications.com/10.3892/mco.2022.2501>

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://shimabarabyouin.jp/>

診療科・ 医療技術部門 紹介

臨床検査科

技師長
大串 潤一郎

一歩進んだ検査を目指して

生化学(蛋白や酵素、薬物など)・免疫(腫瘍マーカーや感染症)・血液・一般(尿や体腔液)などの検体検査、輸血検査、細菌検査、生理検査を行っています。

【生化学】生化学分析器で酵素や電解質など約45項目が測定可能です。免疫分析器では、がん診断の補助検査のひとつである腫瘍マーカー検査などを行っています。

【細菌】起炎菌の検出、適切な抗菌薬の選択のための同感受性検査、抗酸菌検査、ICTの活動が主業務です。また、新型コロナウイルス感染症の遺伝子検査であるPCR検査も行っています。

【生理】心電図・24時間心電図・呼吸機能・エコー検査(心臓・頸動脈・腹部・乳腺・甲状腺など)・血圧脈波(ABI)・脳波・神経伝導速度・心臓カテーテル検査介助などを行っています。

NST回診にも参加し、アルブミン値の提供や各種検査値からみた専門的なアドバイスを行っています。

現在の資格取得状況は、超音波検査士2名、細胞検査士1名、緊急臨床検査士1名、JHRS認定心電図専門士2名、認定輸血検査技師1名、NST専門療法士1名、2級臨床検査士(血液学)1名、2級臨床検査士(微生物学)1名、JHRS心電図検定(1級)1名・(3級)1名です。今後も有資格者を増やし、検査の質の向上に努めます。

栄養管理室

専門技師
松尾 奈津子

患者に寄り添った栄養管理

当院では各病棟栄養士担当が病棟を訪問し、患者さんの話を伺って状態を把握しながら、一人ひとりに合った栄養計画を立案し、定期的に栄養評価を行いながら計画を見直しています。

また、各病棟カンファレンスや回診、NSTや緩和ケアチームなどへ参加し、他職種との連携の中でより効果的な栄養管理を行うよう努めています。

食事に関しては嗜好調査や患者さんの声を基に、日々献立の改良を進めています。行事食やご当地献立、選択メニューなど患者さんに楽しんでいただけるイベントも実施しています。

輸血班

主任技師
永田 久乃

安全な輸血療法を目指して

輸血班は、白血病などの血液疾患により血液が作れなくなったときや手術や怪我による出血があったときに、輸血が必要になった患者さんへ血液製剤を供給する部門です。

輸血分野に高い専門性を有することを証明された認定輸血検査技師1名が所属しており、患者さんに適合する血液製剤を準備するための血液型・クロスマッチなどの輸血関連検査を実施しています。また、緊急時に滞りなく血液製剤を提供できるように適切な在庫管理も行っています。

患者さんに安全な輸血を受けていただくために、輸血療法の実施にあたっては、各種ガイドラインに沿った輸血療法の実施だけではなく、輸血療法委員会を通じ、輸血療法に関わるスタッフの連携強化に努めています。

リハビリテーション科

技師長
浦川 純二

質の高いリハビリテーションを目指して

当院では、骨折などの整形外科疾患、脳卒中などの脳血管疾患、心不全をはじめとした循環器疾患、肺炎や肺気腫などの呼吸器疾患、外科手術前後の廃用予防など、入院される多くの方々に対して、入院した日から始まる急性期のリハビリテーションを実施しています。発症直後の回復を左右する重要な時期に、多職種による治療方針の検討と確認を密に行いながら、最新の知識と高い技術をもって取り組んでいます。当院でのリハビリテーションによって早期の回復をサポートし、健康的な生活を取り戻すためのお手伝いをいたします。また、がん患者の緩和ケアや障害児の外来リハビリテーションについても地域ニーズに答えるべく関係機関や専門職間と連携し、質の高いリハビリテーションの提供に努めております。



リハビリテーション室

総合医療支援センター

センター長
林之茂

地域と病院を「つなぐ」窓口 総合医療支援センターには様々な役割があります。

1. 地域の医療機関からの診療・検査の予約や、院外の医療機関の予約を取得する地域連携室
2. 院外問わず相談を受ける医療相談室・がん相談センター
3. 入院前より入院後の療養生活についての計画を立て支援するために令和6年度新設された入院支援室
4. 患者さんやご家族が安心して治療を受け、住み慣れた場所や地域で生活ができるように支援する退院支援部門
5. 地域住民の健康増進のための情報を掲載した広報誌発行や市民公開講座等の開催
などを行っています。この地域の方々が疾患を持ちながらもできるだけ安心して、自分らしく生活できるように院内外と連携を行い、支援しています。

薬局

薬局長
早稲田 宗

薬物療法の有効性・安全性の向上を目指して

薬局では、腎機能等を考慮した処方鑑査、入院時の持参薬確認と代替薬の提案、抗がん剤の無菌調製、抗MRSA薬投与時の投与量設計、緩和ケア・栄養サポート・感染制御・医療安全等のチーム医療、並びに将来を担う薬学生育成のための薬学実務実習に取り組んでいます。

また、薬の責任者として薬物療法の有効性と安全性の向上を図り、患者さんに安心・安全な医療が提供できるよう、ファーマシューティカルケアの実践や病棟薬剤業務の充実、薬業連携の推進に取り組んでいます。



薬局

臨床工学室

専門技師
高森 良知

臨床と工学を融合させながら

当院の臨床工学技士は2名と少人数であるので、如何に全ての分野に関われるか且つ、効率良く業務遂行できるかを考える事で患者に間接的に利益になるようにしています。

臨床分野では体外循環である腎臓から癌患者等の治療・緩和目的を遂行し、人工呼吸器及び高流量酸素療法では依頼に応じて小児から大人までのアプローチ、ペースメーカーでは遠隔治療等管理とMRI立ち合い設定等、OP室では脳を始め様々な臨床での立ち合い作業、HCUでは臨床上の機器の管理等など臨床上ではこのような事を行っています。

工学分野では医療機器管理約1000台を日常点検と定期点検を行い、医療ガスではアウトレットの点検や立ち合い及び作業、患者接続モニター等の周波数管理、病院内特殊電源の点検トラブルシューティングなどが主な仕事です。

地域脳卒中センター

センター長
林之茂

当院は島原半島の脳卒中急性期医療を担っています。

平成21年より「脳卒中センター」の認定を受けており、脳卒中ホットラインを構築し24時間体制で脳卒中の急性期医療を行っています。脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の治療を行うと共に、リハビリテーションは多職種連携しながら早期介入・早期離床・早期回復を目指し、質の高いリハビリテーションを提供しています。急性期治療後は、自宅退院のほか、回復期リハビリ病院など地域の連携する機関へ紹介し、地域で連携して治療の継続に努めています。また、救急隊との症例検討会や脳卒中に携わる看護師育成研修の他、市民公開講座の開催や脳卒中ノート(冊子)を設置し、脳卒中の予防を啓蒙しています。



脳卒中市民公開講座

診療科・ 医療技術部門 紹介

診療情報管理室

診療情報管理室長
林 徳眞吉

診療記録と情報システムの管理・運用を行い、 安全性、正確性、信頼性、便利性、効率性、保全性 の維持に取り組んでいます

患者さんやそのご家族からの診療記録の開示請求、臨床研究、行政からの開示請求などの対応を行っており、各種診療情報の開示・提供に必要な情報の抽出や写しの申請へ対応は、個人情報保護法を基に定められた規程やガイドラインに基づき厳格に行っています。

また、医療の質の向上に繋がるよう、入院診療計画書、退院時要約、手術記録などの重要な診療記録が漏れなく作成されているか、正しく記載されているかの点検を行い、作成率や記載率、記載の質を向上のため、医師へのフィードバックや院内委員会等で啓蒙活動に取り組んでいます。

医療安全管理室

医療安全管理室長
山西 幹夫

安全な医療の提供は医療の基本であり、 医療の質向上を目指して活動します

医療安全管理室は、医療安全管理班と感染管理班で構成されています。

病院は、医療事故をなくすために病院全体で取り組んでいます。医療安全管理班は、「人は誤りを犯す」を前提に、エラーを誘発しない環境や、起こったエラーを糧に事故を未然に防ぐためのシステムを組織全体として構築するために活動しています。

病院においては院内感染の発生を未然に防ぐこと、ひとたび発生した感染症が拡大しないように制圧することが大切です。感染管理対策班は総ての職員、患者さんに対して組織的な対応をすること、また、地域に向けても教育・啓発活動をしています。

NST

栄養管理室
松尾 奈津子

多職種の視点で最良の栄養療法を導き出す

患者さんの栄養状態が悪化することで、病状の悪化や回復の遅延、免疫力の低下、褥瘡の発生などを引き起こし、治療に悪影響を与えます。そのため、栄養管理は治療を進めるうえで大変重要な役割を担っています。NSTはNutrition Support Teamの略で、医師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・看護師・リハビリスタッフなどの専門スタッフが連携し、それぞれが専門的な知識や技術を出し合い、総合的な知見から栄養管理を行うことを目的とした医療チームのことです。

栄養管理には輸液の選択、摂食嚥下リハビリの実施、患者さんの情報など様々な要素が絡んできます。各職種で必要な情報を持ち寄り、総合的に検討を行うことで、より理想的な栄養管理へ導いています。

ICT(感染対策チーム)

医長
三原 智

ICTとはインフェクションコントロールチーム(Infection Control Team)の略称で、院内で起こる感染症から患者、家族、職員の安全を守るために活動を行う組織です。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など多職種が集まり、病院全体の感染対策活動に従事しています。

ICT(感染対策チーム)は以下の業務について主要な役割を担っています。

- 1) 医療関連感染にかかわる病原微生物の分離状況(薬剤耐性菌など)及びその防止・管理のための調査。
- 2) 抗菌薬・消毒剤の適正使用の推進活動。
- 3) 医療関連感染防止のための職員教育・指導・相談。
- 4) 医療関連感染防止のための情報収集と必要部門への伝達。
- 5) 週に1回、施設・環境及び感染対策状況確認のラウンド実施。
- 6) 医療関連感染防止に関すること(サーベイランス)
- 7) 職業感染対策。
- 8) 感染対策マニュアルの作成と改定。
- 9) 地域医療機関との連携や支援。新興感染症受け入れ訓練、施設の訪問等。

緩和ケアチーム

緩和ケア認定看護師
市川 めぐみ

患者と向き合い、寄り添って、その人らしい 生き方を支える

がん患者は、がん自体の症状のほかに、痛み、倦怠感などのさまざまな身体的な症状や、落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛を経験します。

「緩和ケア」は、がんと診断されたときから行う、身体的・精神的な苦痛をやわらげるためのケアです。可能な限り質の高い生活が送れるように、がん患者とその家族を、主治医をはじめ病棟看護師、緩和ケアチームで様々な苦痛を和らげ、患者のやりたいこと、できることを最期まで支援しています。

緩和ケアチームは、専門的緩和ケアを実践する医師、看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士など多職種チームで構成し、患者・家族の様々な苦痛から解放する知識と技術の提供を行い、患者と向き合い寄り添いながら、その人らしい生き方を家族と共に支えています。

患者の尊厳を大事にし、地域の特性やニーズを考慮しながら、医療・介護福祉・地域を巻き込んだ包括的な緩和ケア提供体制を構築し、患者・家族を地域全体で支える体制を整えていきたいと思っています



がん診療センター 紹介

院内がん登録室

診療情報管理士
岩永 聖奈

質の高い情報収集に資する精度管理と情報公開を目指して

がん登録室では「がん登録等の推進に関する法律」に基づき、当院で初めて診断や治療を受けたすべての患者さんの情報(がんの部位、組織型、進行度、治療内容、予後情報など99項目)を登録しています。

がん登録情報から予後情報までを追跡調査し、国立がんセンターへ提出します。全国の病院から提出されたデータを基に、がんの発生・死亡の動向の把握や原因の解明、がん種類ごとの治療成績(生存率など)の情報が作成され、がん医療の向上やがん対策へ活用されます。

登録業務は、「国立がん研究センターがん対策情報センターによる院内がん登録実務者研修」を終了したものが担当し、データの精度管理をより厳しく行い臨床に役立つがん登録を目指しています。

当院や長崎県のデータをパンフレット(腫瘍集計報告書)やホームページでも公開しています。患者さんをはじめ地域の皆様に、がん治療の情報としてお役にたていただければと思います。

がん相談センター

がん相談員
馬渡 由美子

患者家族に寄り添い支える

がんについて色々な相談ができる「がん相談センター」は「がん診療連携拠点病院」などに設置されている「がんの相談窓口」です。がん相談員としての研修を受けたスタッフが、信頼できる情報に基づいて、がんの相談に対応します。

診断や治療の状況に関わらず、どんなタイミングでもがんに関する様々なことを相談することができます。がんの疑いがあると言われたとき、診断から治療、その後の療養生活、さらには社会復帰と、生活全般にわたって疑問や不安を感じた時に相談をする場です。患者さまの気持ちを大切にしながら、患者さまにあったやり方で、一步一步進んでいけるようにサポートします。大切な人を支えるために、ご家族の気持ちや悩みについても一緒に考えるお手伝いをします。一緒に今とこれからの考える力になりたいと思っています。



リニアック



外来薬物療法センター

緩和ケアセンター

センター長
山西 幹夫

切れ目のない緩和ケアを目指して

平成19年1月に地域がん診療連携拠点病院の認定を受け、2次医療圏内の島原半島全域のがん医療を担っており、地域に根ざした緩和ケアセンターとして進化し、質の高い緩和ケアが提供できるように取り組んでいます。診断・治療・在宅医療などあらゆる場面でも、切れ目なく緩和ケアが実施できるように、医療・介護福祉・地域との連携強化を図り、緩和ケア普及・推進に努めています。

緩和医療部門として、以下の8つの強化すべき目標を掲げ、多岐にわたり緩和ケアチーム活動を行っています。

- ①患者とその家族などの心情に配慮した意思決定・療養環境の整備
- ②苦痛のスクリーニングの徹底
- ③基本的緩和ケアの提供体制
- ④基本的緩和ケアへのアクセスの改善
- ⑤専門的緩和ケアの提供体制
- ⑥相談支援の提供体制
- ⑦切れ目のない地域連携体制の構築
- ⑧緩和ケアに関するPDCAサイクルの確保

外来薬物療法センター

センター長
菅崎 七枝

アットホームな治療室を目指しています

2007年10月に外来化学療法室として開設され、15年が経過しました。支持療法の進歩やCVポート(皮下埋め込み型中心静脈アクセスポート)の導入、地域との連携により、治療の場が入院から外来へ移行し、在宅で過ごしなが、仕事や趣味を継続しながら安全・確実・安楽に治療ができるようになりました。副作用が少ない抗癌剤や個別的な治療方法、免疫チェックポイント阻害薬の適応拡大などがん薬物療法分野において画期的な進歩を遂げています。

通院治療へ移行後も、就労支援、社会資源の紹介、栄養指導、服薬指導、がん相談など多職種が連携して患者さんと家族の通院治療に対する不安や悩みに寄り添いながら支援していきます。今後は、院外薬局との情報交換を行い、地域でも切れ目なく副作用に対するマネジメントができるよう連携していきたいと思っています。

患者・家族のライフイベントを大切にしながら、治療が継続できるよう多職種と連携し支援していきたいと思っていますので、お気軽にご相談ください。

医師臨床研修部門 紹介

当院は島原半島における基幹病院として、若手医師の育成を行っています

平成17年に臨床研修病院としてスタートし、現在までに20名近くの初期臨床研修医の育成を行ってきました。

当院の研修プログラムは基本的な臨床能力を身につけるとともに、期待される医師像を修得し、併せて地域医療を中心とした患者本位の医療を提供できる能力を身につけることを目的としています。



初期臨床研修医ローテーション例

1年次	基本研修科目(必修科目)					
	26週		12週		9週	5週
	内科		救急		外科	小児科
2年次	基本研修科目(必修科目)				選択科目(キャリア研修)	
	4週	4週	4週	8週	32週	
	産婦人科	精神科	地域医療	麻酔科	選択科目	

特徴

- 内科26週連続研修
- 外科9週必須
- 連携病院での院外研修も可能

※ 選択科目では整形外科、脳外科、泌尿器科、麻酔科、放射線科、病理診断科も選択できます。

POINT

1

少数精鋭ゆえにマンツーマンで目の行き届いた指導！

診療科ごとに指導医が個別に指導しています。地域の中核となる中規模病院で一般的な症例から大学病院並みの高度な検査、診療に直接触れて、研修医自らが対処法を考え、実践できますが、疑問や質問には指導医がマンツーマンで丁寧に指導してより深い知識や経験を導いています。



POINT

2

多彩な症例を経験できる！

医師として幅広い経験を希望される方や、どのような方向に進みたいのか検討している方にとっては、様々な症例も多く、地域と密接な関係をもつ医療機関でしか学べない経験ができるため、医師として貴重な経験となります。



POINT

3

地域医療ならではの初期診療から高度な先進医療まで学べる！

島原病院は、県南医療圏における急性期医療を提供しております。各分野において経験豊富な専門医が在籍していること、多くの最先端医療機器を活用した検査データを用いることにより、高度な医療を体験学ぶことができます。



初期臨床研修医受入実績（直近3年間）

	受入実績
2023年度	3人
2024年度	2人
2025年度	3人



指導医からの声



副院長
山西 幹夫

初期臨床研修の間に、医師としての基盤づくりをしっかりとて貰いたいと考えています。そのために、自分なりの目標を設けて、常に問題意識を持って研修に臨んで貰いたいと思っています。できるだけ自主性を尊重して、のびのびと研修ができるようにサポートしますので、何でも相談してください。

研修医からの声



研修医2年次
岡野 修人

私は将来、どの診療科に進むにしても2年間の研修期間中は幅広い経験を積みたいと考え、島原病院を選びました。島原病院の研修のポイントの1つに、消化器内科や呼吸器内科等の区別なく「内科」として半年間まわる点があります。この半年の間に、胃カメラや気管支鏡、心臓カテーテル検査など様々な手技を手厚く指導していただけるのに加えて、患者さんの入院から退院までのマネジメントまでしっかり学ぶことができます。地域で活躍できる知識・技術と広い視野を持った医師を目指しています。

研修医からの声



研修医2年次
木場 杏夏

島原病院では、診療科の垣根が低く、どの科の先生にも相談しやすい環境です。異なる科を研修中でも、勉強になる症例があると、担当することができます。また、内視鏡や穿刺などの手技も多く経験させてください。また、研修医室の環境も良さの一つです。研修医室にはカルテが2台あり、研修医向けの図書も多く、業務・自己研鑽に集中できます。研修医担当の秘書さんも同じ部屋で仕事をされているので、事務関連のことなどいつでも相談することができます。一番は、自主性を大事にしてくださり、学びたいことに、先生方や他職種の方が快く協力してくださり、充実した研修を行える点が魅力だと思います。

看護部 紹介



島原病院看護部は、地域医療の要として、患者さんのその人らしさに注目し、気づきを大切にしています。専門職として、主体性のある行動ができる看護師の育成に努めています。患者さん・ご家族・組織のために自分ができることを考

えて行動することを目指します。そして、高い看護実践能力とレジリエンス(状況に合わせて柔軟に対応できる力)を兼ね備えた看護師の育成に努め、倫理観に基づいた柔軟な思考でケアを行える組織づくりに努めていきます。

看護部理念

あらゆる看護レベルの患者さんがその人らしい生活を過ごされるために(私たちは)専門職として自立した行動と責任を果たします

看護部目標

- 組織人、専門職としての役割を理解し、質の高い看護を提供する
- やりがい感・働きやすい職場環境、ワークライフ・バランスに取り組む
- 効率的・安定した健全な病院経営に貢献する

看護部概要

看護配置 急性期一般入院料1・・・4階東・4階南・5階東
地域包括ケア病棟入院料2・・・5階南
ハイケアユニット入院医療管理料1・・・HCU

看護体制 固定チームナーシング

勤務体制 変則2交代制(4階東・4階南・5階東・5階南・HCU)
2交代制(外来)
オンコール体制(手術室)

実習指導者講習会修了者 27名
看護師平均年齢 39.0歳
新人職員離職率 0%

部署紹介

4階東病棟

外科、泌尿器科、消化器内科、一般内科の病棟です。

地域がん診療連携拠点病院の指定を受けていますのでがん看護を中心に患者さんの診療・治療が安全に行えるように努めています。

周術期看護から終末期看護まで幅広く対応するために、患者さんご家族の思いを大切に医師をはじめとした多職種と連携しています。

4階南病棟

呼吸器内科、循環器内科、小児科の病棟で感染症病床4床を有しています。

呼吸器内科は肺がん患者さんが多く、診断のための検査から化学療法・放射線治療が行われています。循環器内科は心不全や心臓カテーテル検査等の受け入れを行っています。小児科は生後数日から中学生まで幅広く対応しています。安全・安心な看護を提供できるように日々励んでいます。

5階東病棟

脳神経外科、整形外科の病棟で、8割が緊急入院のため、常に受け入れ体制を整えています。緊急入院された患者さんご家族の不安や緊張を少しでも和らげることができるように努めています。急性期から早期離床・機能回復に向けたリハビリテーションを行っています。患者さんご家族の意向に沿い、一人でも多くの患者さんが住み慣れた元の生活環境に戻れるよう退院に向けた支援を行っています。

5階南病棟 (地域包括ケア病棟)

急性期病棟治療を終え、自宅退院に向けたリハビリ継続や在宅環境調整が必要な患者さんを受け入れています。主治医をはじめ、看護師や療法士、社会福祉士、栄養士、薬剤師など多職種で連携しながら、安心して退院ができるように支援しています。外科、整形外科、泌尿器科の短期滞在手術対象患者も受け入れており、幅広い知識と経験があるスタッフが日々頑張っています。

HCU

重症度の高い緊急入院、全身麻酔後や重症化リスクの高い術後患者さんを受け入れ、24時間体制で全身管理を行っています。また地域脳卒中センターとして脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の超急性期患者さんに対し、集中的治療・看護を実施しています。生命の危機を早期に脱して回復に向かうことを目標に、他職種と連携し、安全・安楽な看護が提供できるよう日々取り組んでいます。

手術室

外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科の手術を年間1300例行っています。

患者さんに安心して手術を受けてもらえるよう、寄り添った看護を目標に手術前後の訪問を行い、安全・安心の医療の提供に努めています。

外来

「患者さんへの心配り」「分かりやすい説明」をモットーに患者さんが安心して診療や検査が受けられるように努めています。

一般診療介助をはじめ、内視鏡検査や放射線検査介助と多岐に渡って業務を行っています。

がん化学療法看護・がん放射線療法看護・救急看護の認定看護師を配置し、それぞれの専門領域の看護場面で活躍しています。

看護教育

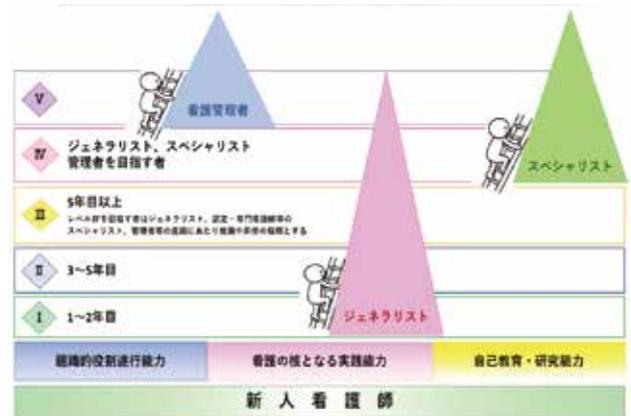
ひとりひとりがキャリアアップできる環境があります

長崎県島原病院 看護部教育理念

質の高い看護を提供するために、専門職として主体性のある行動ができる看護師を育成する。

長崎県島原病院 教育目標

- 1) 一人ひとりが専門職として、自己実現の目標が設定でき、常に自己の成長をめざし行動できるよう、能力を開発・育成する。
- 2) 看護チームが、お互いの自己実現のための目標を明確にする過程に支援し、その目標を尊重し、達成に向けて支援できる組織を育成する。
- 3) 個人を尊重し、共感を持って人々に関わることができるような態度を育成する。
- 4) 看護を取り巻く社会環境の変化(倫理、診療報酬、社会の動向・ニーズ、チーム医療)に対応できるよう育成する。



認定看護師・特定看護師・診療看護師

当院には7領域、9名の認定看護師(うち3名は特定認定看護師)と1名の診療看護師が在籍し、各専門分野で患者さんへの看護実践や職員指導・相談対応など幅広く活躍しています。

認定看護師

- ▷皮膚・排泄ケア認定看護師
- ▷緩和ケア認定看護師
- ▷がん化学療法看護認定看護師
- ▷がん放射線療法看護認定看護師
- ▷脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

特定認定看護師

- ▷クリティカルケア特定認定看護師
- ▷感染管理特定認定看護師

認定看護管理者

診療看護師

キャリアパスを応援しています！

自己啓発支援制度

認定看護師や診療看護師を目指す看護職員に対し、生活費や修学費の貸与(支援)を行います。元の病院で義務年限以上勤務することで貸与された資金が全額返済免除となります。

クリティカルケア特定認定看護師教育課程受講 高木 奈津子

以前から興味があった救急、集中、災害看護を深めたいと思い、日本DMAT隊員・長崎県災害支援ナースに登録し、2023年度は勇気を振り絞ってクリティカルケア認定看護師教育課程に挑戦しました。2023年4月から10ヶ月間、長崎県病院企業団の認定看護師育成研修費貸与制度を活用させていただき修了することができました。教育課程は決して楽ではありませんでしたが、それ以上に看護の力が無限に広がる可能性を実感しました。そして2024年クリティカルケア認定看護師の資格を取得し、活動しています。



院内認定看護師

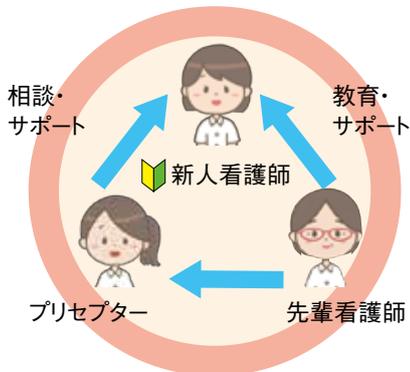
急性期医療を担う看護職者として必要な知識・技術・態度を備え、安全で質の高い看護が提供できる看護師を育成することなどを目的として、2019年よりIVナース、2023年より救急看護の院内認定看護師育成研修を開講しています。

これまでにIVナースは47名、救急看護は3名の院内認定看護師が誕生し、各病棟、外来などにて質の高い看護の実践看護師として活躍しています。



看護部 紹介

新人看護師サポート体制



島原病院の看護提供方式は、固定チームナーシングで、一年間チームを固定して看護を提供し、一人ひとりの看護師のやりたい看護をチームで支えています。新人看護師には、プリセプター看護師がつき、1対1の関係で支援を行います。プリセプター看護師だけでなく、チーム全体でも支援していきます。部署内での教育(OJT)や集合教育(Off-JT)を組み合わせながら、新人看護師のリアリティショックの緩和、職場適応を促進します。

また、看護職員の主体的学習を支援し、質の高い看護サービスを提供できる人材を育成するため、長崎県病院企業団キャリアラダーを活用し、専門職としての実践能力を高め、将来に夢を抱いて自己のキャリア形成ができるよう支援しています。

プリセプティの声

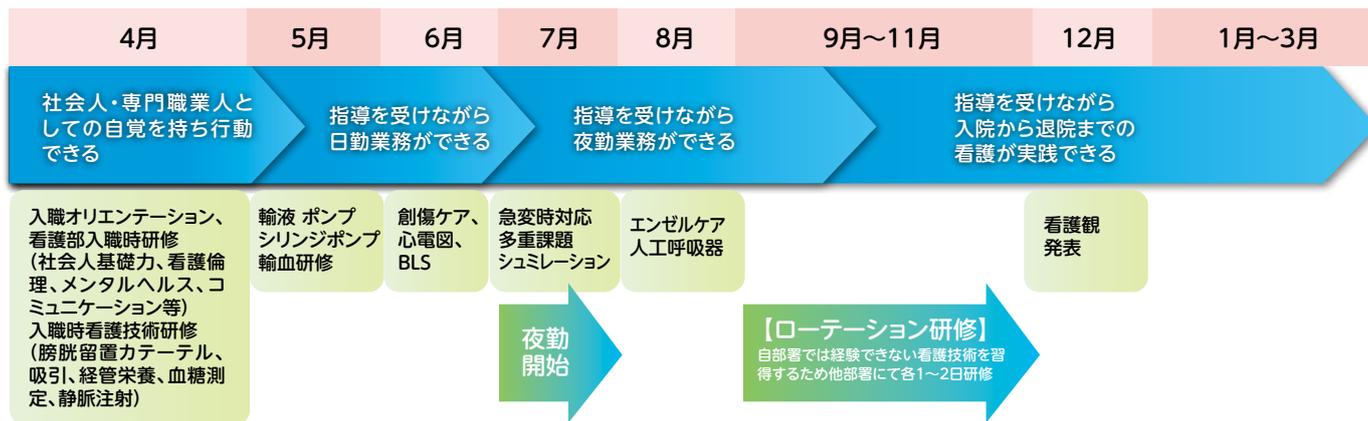
初めての頃は分からない事ばかりでしたが、プリセプターの先輩がいつも優しく教えてくださいました。また、悩む事や困ったことがあると親身に相談にのってくださり心強いお姉さんのような存在です。病棟の先輩方からも声をかけて頂きました。先輩に教えて頂いたことを活かし、更なる知識、技術の向上を目指して1日1日を大切にしながら、人として看護師として成長していきたいです。

プリセプターの声

入職して3年目でプリセプターを経験させていただきました。新人看護師が知識・技術の習得に向けての学習方法や看護実践での悩みを一緒に解決できるように病棟全体でアドバイスや声かけを行い、新人看護師が抱え込まないよう支援しました。プリセプターとして、新人教育を行い指導することで自分の学習にも繋がり、新人看護師と一緒に成長することができました。今後も新人看護師と一緒に成長していきたいと思えます。



新人看護師年間教育スケジュール (新人教育委員会主催)



福利厚生

項目	内容	
休暇	4週8休、 年末年始休暇、祝日休、 有給休暇年間20日(4月1日～3月31日)、 夏季休暇5日、 リフレッシュ休暇5日(30歳・35歳・45歳・55歳)、 その他休暇:結婚休暇(7日)・病気休暇・忌引休暇・産前産後休暇・育児休業、介護休暇等	
賃金 (令和7年4月1日現在)	初任給月額254,300円(大学4年卒)249,400円(短大3年卒) 夜勤手当7,600円×4回=30,400円 賞与年2回(令和6年度実績4.6か月) 《モデル年収・月収例》 看護師(大学4卒) モデル年収 約490万円 モデル月収 306,972円:内訳:基本給 254,300円、特別調整手当 12,000円、 夜間勤務手当(4回分)10,272円、夜間看護手当(4回分)30,400円 看護師(短大3卒) モデル年収 約480万円 モデル月収 301,880円:内訳:基本給 249,400円、特別調整手当 12,000円、 夜間勤務手当(4回分)10,080円、夜間看護手当(4回分)30,400円	
子育て支援	院内保育所あり 子供の看護休暇(5日、2人以上10日) 夜勤免除(産前休暇前迄) 妊娠通勤緩和休暇(1日1時間以内) 育児短時間勤務制度の取得 出産補助休暇	
自己啓発支援	認定看護師や診療看護師を目指す看護職員に対し、生活費や修学費の貸与(支援)が受けられる。 元の病院で義務年限以上勤務することで貸与された資金が全額返済免除となる。	
その他	住居手当(最高限度月額28,000円) 通勤手当、扶養手当、処遇改善手当(12,000円) 地方職員共済組合(健康保険、年金、住宅資金貸付等) 地方公務員災害補償基金 長崎県職員互助会加入(各種給付金、その他レクリエーション助成金等、リフレッシュ旅行補助金、レクリエーション助成金、スポーツ観戦チケット助成金等)	

入職希望者のよくある質問



夜勤に入るのはいつからですか？

日勤業務が先輩看護師へ報告・連絡・相談しながらできること、技術面・安全面・体調管理ができることなどの夜勤前チェックリストを評価をし、プリセプターと師長が夜勤開始できるかを判断します。早い人で7月から夜勤開始となります。2回目まではプラス1名体制で支援を受けながら夜勤を行います。



施設見学はできますか？

可能です。事前に病院看護部までお問い合わせのご連絡をお願いします。



奨学金制度はありますか？

長崎県病院企業団では看護師になりたい方の就学を支援する「医療技術修学資金制度」を設けています。詳しくお聞きになりたい方は病院総務課までお問い合わせください。



希望する部署に行けますか？

年に2回の意向調査を行い、職員のモチベーション向上やスキルアップができるよう考えます。



病院機能

地域医療支援病院

医療は患者の身近な地域で提供されることが望ましいという観点から、かかりつけ医を地域における第一線の医療機関として位置づけるとともに、かかりつけ医を支援し、二次医療圏単位で地域医療の充実を図る病院として、地域医療支援病院の制度が設けられました。当院は平成16年4月県では2番目に承認を受けました。

地域医療支援病院の役割

- ① 紹介患者に対する医療の提供
- ② 医療機器の共同利用の実施
- ③ 救急医療の提供
- ④ 地域の医療従事者に対する研修の実施



地域連携公開セミナー

地域がん診療連携拠点病院

どこに住んでいても質の高いがん医療が受けられるように各地域にがん診療拠点病院が指定されています。長崎県では5か所指定されたうちの一つです。専門的ながん医療の提供、がん診療の地域連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援及び情報提供などを行っています。

地域がん診療拠点病院の役割

- ① 放射線治療の充実
- ② がん薬物療法の充実
- ③ 手術療法の充実
- ④ 緩和ケアの提供
- ⑤ 医療従事者への研修実施
- ⑥ がん相談センターによる相談支援
- ⑦ 院内がん登録による情報の集約・発信



緩和ケアカンファレンス



外来薬物療法センター

日本がん治療認定医機構認定研修施設

がん治療認定医として不可欠な知識、技能、臨床的判断、心構えを習得するための環境を提供する施設として認定されました。



第二種感染症指定医療機関

第2種感染症指定医療機関は、感染症法等に基づき、感染症患者に対し早期に良質かつ適切な医療を提供し、その重症化を防ぐことを担当する医療機関です。管内の二次医療圏ごとに原則として1か所指定する病院で、都道府県知事が指定するものです。全国では359医療機関(令和6年4月1日現在)が、長崎県では13の医療機関が指定を受けています。2類感染症又は新型インフルエンザ等感染症の患者等の一般病院で対応するには危険性が高い感染症の患者を収容し治療する特別な医療施設です。島原病院では、設備を整えた個室4床で対応します。

救急告示病院

救急及び急性期医療を担う高い医療機能を備えた病院として、地域のニーズに応えるため、救急医療をはじめとした診療機能の充実に努めています。

平成21年7月から当院敷地内にドクターヘリが離着陸し、半島内の患者さんを短時間で当院へ搬送・治療することができるようになりました。また、重篤な患者さんを三次救急である長崎医療センター等へ、短時間で搬送することも可能となりました。



災害拠点病院

長崎県内に14施設ある災害拠点病院の一つであり、災害発生時に都道府県知事の要請により傷病者の受け入れや災害派遣医療チーム(DMAT)、医療救護班の派遣等を行います。

当院の取り組み

- ①病院建物の耐震化
- ②研修ホールを災害時の救護所として利用
- ③災害医療派遣チーム(DMAT)の配備
- ④自家発電および無停電装置の設置
- ⑤医療資材、食料等の備蓄
- ⑥災害訓練の実施(年1回)



災害訓練

DMAT 指定病院

大災害や局地災害に対して迅速な対応ができる体制を整えています。



災害被災地における医療支援活動

地域脳卒中センター

H30年4月より2次医療圏における脳卒中診療の中核として「地域脳卒中センター」と認定されています。24時間脳卒中患者の受け入れを行い、県内3ヶ所にある「高次脳卒中センター」への重症患者などの搬送の役割も担っています。「高次脳卒中センター」への重症患者などの搬送の役割も担っています。

地域脳卒中センターの機能

- ・脳卒中患者の常時受け入れが可能なこと
- ・専門の検査、診断、治療が可能であること
- ・専門の医師、コメディカルが配置されていること
- ・急性期リハビリテーションを行っていることなど



回診風景

臨床研修指定病院

医師としての人格を涵養し、医学・医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ一般的な診療において適切に対応できるよう指導を行っています。



(公財)日本医療機能評価機構 認定

当院は医療機関の第三者評価を行う(公財)日本医療機能評価機構より、令和3年10月1日に3rdG:Ver2.0の更新認定をうけました。



医療設備

- CT(コンピュータ断層撮影装置)
- DSA(全身血管造影撮影システム)
- リニアック(医療用放射線治療システム)
- MRI(磁気共鳴断層撮影装置)2基
- RI(核医学診断装置)
- ESWL(体外衝撃波結石破碎装置)

学会認定施設一覧

日本内科学会教育関連施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本呼吸器学会認定施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本消化器外科学会専門医制度関連施設

日本大腸肛門病学会関連施設

日本臨床腫瘍学会認定研修施設

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設

日本整形外科学会専門医制度研修施設

日本脳神経外科学会研修施設

日本麻酔科学会麻酔科認定病院

日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設

日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関

日本放射線腫瘍学会認定協力施設

日本病理学会研修登録施設

日本臨床栄養代謝学会稼働認定施設



アクセス

〈福岡方面から〉

- JR博多駅より特急リレーかもめ【武雄温泉乗換長崎行】→武雄温泉駅(約1時間)→西九州新幹線【長崎行】→諫早駅(約19分)→島原鉄道【島原行】島原港駅下車(約1時間20分)→徒歩(約3分)
- (JR・西鉄)大牟田駅より西鉄バス→三池港(約8分)→やまぎ海運三池島原ライン(フェリー)島原港下船(約50分)→徒歩(約5分)
- 博多駅バスターミナルより高速乗合バス【島原行】→島原駅前下車(約3時間30分)→島原鉄道【島原行】島原港駅下車(約10分)→徒歩(約3分)
- 長崎自動車道福岡IC→諫早IC(約1時間40分)→国道251号線(約60分)

〈熊本方面から〉

- 熊本港より熊本フェリー→島原港下船(約30分)→徒歩(約5分)
- 長州港より有明フェリー→多比良港下船(約45分)→島鉄バス【島原港行】島原港下車(約25分)→徒歩(約5分)

〈長崎空港から〉

- 長崎県営バス【諫早駅前行】・島鉄バス【長崎空港線】→諫早駅下車(約40分)→島原鉄道【島原行】島原港駅下車(約1時間20分)→徒歩(約3分)
- 長崎県営バス【諫早駅前行】・島鉄バス【長崎空港線】→諫早駅前下車(約40分)→島鉄バス【島原港行】島原港下車(約1時間30分)→徒歩(約5分)

〈長崎方面から〉

- JR長崎駅→諫早駅(約35分)→島原鉄道【島原行】島原港駅下車(約1時間20分)→徒歩(約3分)
- 長崎自動車道多良見IC→諫早IC(約10分)→国道251号線(約60分)



〒855-0861 長崎県島原市下川尻町7895番地
TEL.0957-63-1145 FAX.0957-63-4864
E-mail:shimabara@nagasaki-hosp-agency.or.jp
ホームページアドレス:https://shimabarabyoin.jp

右のQRコードからも
アクセスできます



ご案内

- 診療時間/平日午前9時～午後5時
- 受付時間/平日午前8時45分～午前11時(診療科によっては異なる場合があります)
- 休日/土曜・日曜・祝日・年末年始(急患については随時受け付けます)

